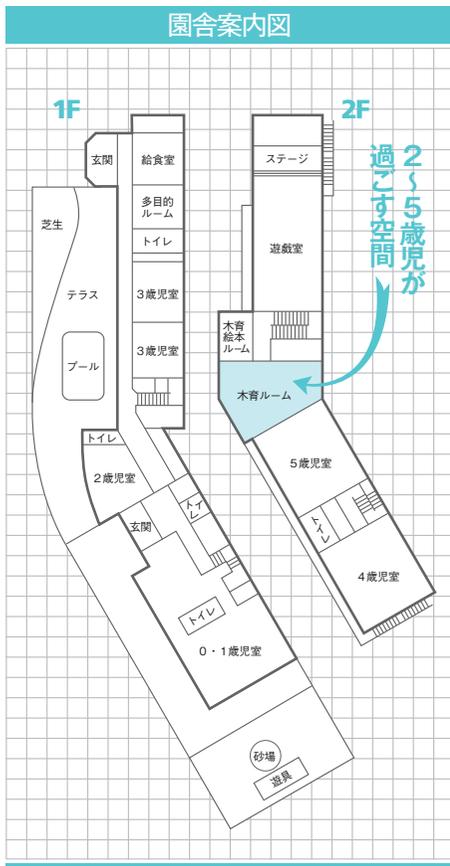


木育ルーム。ここには遊びの工夫も盛りだくさん。中2階の「ごっこ遊びコーナー」は、囲いが格子なので、子どもは秘密基地気分を味わえ、保育者は外からでも様子をうかがえる。東京おもちゃ美術館が監修した



もくいく 「木育」は心の栄養

社会福祉法人
めぐみこども園 (福井県福井市)

お話をうかがった人・園長 中戸華恵先生

写真 渡辺 悟

「木育ルーム」を増設したのが2015(平成27)年、4年目になります。赤ちゃんがいちばん心地よく感じるのは「お母さんの肌」、2番目は「木のぬくもり」と言われています。木は人肌に近いぬくもりがあるため、安らぎや安心感ももてます。幼い時から木のぬくもりを感じ、木の触り心地を味わうことで、情緒の安定を目的としています。「食育」が体の栄養だとしたら、「木育」は

心の栄養です。

今の時代は、新しいものが多く、デジタルで溢れています。だからこそ、園では、子どもたちが様々な体験を通して自然とふれ合うことで、楽しさ、うれしさなどを共感しながら、思いやり、やさしさの心をもてるようにしています。自然の恵みに感謝し、人やモノとのつながりを大切にしてほしいと思っています。

木のかかわりを主体的に

いろいろな研究データも出ていて、その一つに「木質化率」という言葉があります。ログハウスであれば、全面が木でできた部屋をイメージしますよね。ですが、木育ルームの壁や天井は白く、木質化率は45%くらいです。45%前後で最も人の心が落ち着き、これより高すぎると興奮しすぎてしまうそうです。森林も空間に占める木の割合がこのくらいです。しかし、大事にしているのはハー



写真(上)中2階の“軒下”には「ヒノキの恐竜タマゴプール」。なんと1万2000個のタマゴの形をした木で満たされている(中)木育ルームの畳のスペース。たくさんの木のおもちゃが並べられ、コマ回しもできるちゃぶ台や壁面遊びも(下)大きな木育ルームの利用は2歳児以上なので、0～1歳児は保育室を木育ルームに。動物のフォルムをした「樹齢500年杉の削り出しアート」も



下面だけではありません。木育ルームの床には県内産の100年杉を使用など、「かわり」も大事にしています。県内産はオリジナルの積み木もそうで、桜、杉、檜など10種を用い、それぞれの木の肌触りや色の違いを知ることができます。子どもの頃から木を身近に使うことで、人と、森や木とのつながり、かわりを主體的に考えられる、豊かな心^①を育てたい。そうした想いを込めています。

愛着を育む「ストーリー」

木育のソフト面の1つとして、制作・外遊びをメインとした感性と創造力を高める「木育カリキュラム」も

実施しています。3歳以上は、年4回、講師を招いて実技を体験します。木片から削り出して、やすりをかけて、

て、カスタンネットや木のスプーン作り。カスタンネットはクリスマス会で実際に演奏し、木のスプーンはお泊り会で食事に使います。

この時大事にしているのが、「ストーリー」です。加工前の木がどこで採れたか、どんな人が携わったか、削り手の想いも一緒に考えています。加工の様子を映像で見たり、材料の木を実際に見に行ったりします。制作の前後も含めたストーリーを知ること、愛着が生まれ「大切に使う」という想いになります。おもちゃ作家を園に招くこともしていて、作った人を知ると、子どもたちの反応や愛着が全く違ってきます。

一方で、デジタルと組み合わせたおもしろさも大切にしていければと思っています。園内研修で、虫眼鏡を使う自然観察では、スマートフォンに拡大レンズを付けて、虫眼鏡の代わりにしたりもします。すると、子どもたちも保育者も全然反応が違います。

社会福祉法人
めぐみこども園



所在地
福井県福井市久喜津町34-1

ホームページ
<http://www.megumihoiku.jp/>

定員：165人
・1号／3～5歳児 16人
・2号／3～5歳児 79人
・3号／1～2歳児 57人
・0歳児 13人